

本省課室長級

一日のタイム
スケジュール 例

6:15	起床、体操、朝食
8:40	出勤、メールチェック
9:30	室内業務打合せ、資料作成等
12:00	昼休み
13:30	女性農業者組織の理事会に出席
16:30	職場に戻り、取材対応
17:30	上司と打合せ
18:45	退庁、異業種交流会に参加
22:30	帰宅
24:00	就寝

「困難の先に達成感」

が担当していた水産加工業界でした。平成23年3月11日から一次補正予算が成立した5月までは被災地への物資輸送や復興対策作りに奔走しました。6月以降は毎週のように被災地に通う日々。初めの頃は業界関係者から対策の遅れや不備について厳しい叱責を受けるばかりでしたが、何度も直接話をし、県庁や市町村、そして他省庁とも連携して少しずつ対策を整え、次第に理解を得ていくという業務を通じて、様々な障壁を乗り越えて1つの解を見つけ、真に役立つ施策を作り上げる難しさと達成感の両方を経験できま

した。

女性も男性も活躍できる職場づくり

現職は名前のとおり女性活躍推進が業務。ただ、これまでの経験を踏まえれば、行政であろうが民間であろうが、ビジネスの世界ではほとんど肉体的な差異がものをいう内容でない限り、

Message

女性職員へのメッセージ

悩みや苦しみ、喜びも人それぞれ。仕事の目標は1つでも、職場の中では多様性を認め合い、お互いが最大限能力を発揮できるよう実践すれば、必ず見てくれている人がいます。自分を信じて進みましょう。

激動の30代、最後に官僚の道へ

地方紙の記者・学術出版の編集者として計15年過ごした後、結婚というライフイベントを契機に2度目の転職を検討する中で、農林水産省の経験者採用試験の存在を知り、「食べることは生きること」であり、それに直結する一次産業の分野で貢献できたらと思い、1期生として入省しました。30代で結婚+2度の転職と20代の頃想像してもしなかった経験をして、出産の時期を

気がつくまで逃してしまい、今日に至っているというのが正直なところです。農林水産省では最初に米政策という、日本農業の基本の世界に携わることができ、各種施策の仕組みだけでなく、いわゆるお役所仕事独特の進め方等が早く身に付いたと思います。国会やマスコミ取材対応も多く、省内他部局や他省庁と調整すべき業務も盛りだくさん。体力とコミュニケーション力が重要なのは官僚も記者も同じだな、と実感しました。ただ、大きな違いもあります。ある方に言われてなるほ

震災復興と総括業務で得たもの

水産庁に異動して9か月目に発生した東日本大震災。沿岸部に集積していたために最も被害を受けた産業の1つ

ど、と思った例えですが、『野球の試合でいえば記者はあくまで「観客」に過ぎないけれども、国家公務員は「選手」としてプレーできる、つまり試合Ⅱ施策を作る立場であり、その責任の重さはあるけれども、醍醐味もまた格別』。このことも実感しています。



農林水産省
経営局就農・女性課女性活躍推進室長

さとう かずえ
佐藤 一絵

Kazue Sato

Profile

- 平成20年 農林水産省入省（経験者採用）
総合食料局計画課係長
米の国際政策・総括業務
- 平成21年 総合食料局総務課管理官
総括業務
- 平成22年 水産庁加工流通課課長補佐
水産加工業振興、東日本大震災の復興対策
- 平成24年 水産庁漁政課総括課長補佐
水産庁施策の総合調整、予算総括
- 平成26年～現在 経営局就農・女性課女性活躍推進室長
農林水産業における女性の活躍推進